

# 釧路南ロータリークラブ会報

第13回 例会報告 2012.10.5 通算1461回

・点 鐘

森江会長

・会 長 挨拶

・ロ - タ リ - ソ ン グ

「君が代」「奉仕の理想」「四つのテスト」



ソングリーダー 前田 裕治会員



こんにちは。まずは今週の日曜日には野遊会という事で、和田会員の番屋に大勢お集まり頂きましてありがとうございます。天候にもなんとか持ちこたえてもらい楽しいひと時を過ごすことができました。チャンチャン焼きにはじまり、黒ソイ、本鱒やマンボウの刺身とか焼ガキ、イクラ丼、珍味の数々等食べきれないほど振る舞って頂き大変感謝しているところでございます。あのような安い金額で提供して頂けるのでしたら年に数度はお邪魔したいものだなあと考えるのは私ばかりではないと思います。上川原新睦委員長におかれましてもゲームの進行等、色々とお疲れ様でした。

今日のプログラムはポリオ撲滅説明会となっております。長倉国際社会奉仕委員長の方からお話があると思います。私自身もポリオについては勉強不足ではありますが、「1985年以來、ポリオの感染数は大きく減少しています。しかし、今後も感染の拡大を防ぐために活動を継続する必要があります。一人分のワクチンはわずか60セント。今、ポリオを撲滅しなければ、今後40年間に1000万人の子供がポリオに感染すると予想されています。ロータリーは、一人残さず全ての子供に予防ワクチンを届けるために活動しています。寄付により、予防接種活動に必要なさまざまなことが可能になります。」とあります。心して長倉委員長のお話を聞いてみたいと思いますので宜しく願いいたします。それからご案内のとおり明日、明後日と北見で地区大会が行われます。私は今夜の晩餐会にも出席せねばならず、この

・誕 生 祝 (先週分)

亀岡 孝会員 S29.10.3 (58歳)



後北見へ向かいますが、皆さんも車の事故などには気をつけて会場に向かって頂くようお願いいたします。

### ・幹事報告

- \* 第7・8分区各RCより、10月のプログラムと9月の会報を拝受しております。
- \* 地区協議会の報告書とライラセミナーの報告書が届いております。各テーブルに1部ずつ置いてありますので、ご覧になって下さい。
- \* ガバナー月信が届いておりますので、入口に置いてあります。
- \* 釧路吹奏楽団定期演奏会の案内が届いております。11/4(日)PM14:00～ 長倉会員までお問い合わせください。
- \* 明日は、地区大会です。北見ですので、皆様車には気をつけてお越しください。

### ・委員会報告

#### 出席委員会

会員 23 名 16 名出席 出席率 69.5%

### ・本日のプログラム

#### 「ポリオ撲滅説明会」

担当 国際社会奉仕委員会

#### ◆長倉委員長



つい、最近まで諸先輩の方々から説明を受けておりましたポリオですが、私自身よく分かっておりませんので、資料を集めてきましたので皆さんと一緒に勉強しながら、お話をさせていただきます。ポリオとは、日本では、小児麻痺として知られており国内

では絶滅とされておりますが世界では、まだ4カ国で残っており撲滅しなければ隣接国からまた、世界に広がる危険があります。まずは、高萩 RC ロータリー情報・研修委員会の参照です。

「ポリオ・プラス・プログラム」資料を記載  
また、日本に於きましては、今年の9月1日よりようやく生ワクチンから不活性ワクチンが導入されるようになりました。先進国では生ワクチンを使っていたのは、日本くらいでそういう意味では、遅れていると言えます。我々ロータリアンは、ただ寄付をして無関心であるのではなく、もっと興味を持ち、また、身近なところで何がおこなわれているのか注視する姿勢も必要なのではないかと感じました。

#### 「ポリオ・プラス・プログラム」

人類はポリオを地球から撲滅しようとしています。このようなことは歴史上でも2度目のことで、最初に地球上から撲滅された病気は、1987年に撲滅された天然痘です。

世界ポリオ撲滅運動は、RIが中心となり、WHO（世界保健機構）、ユニセフ（国連児童基金）、アメリカ疾病センター（CDC）、各国政府等と提携して進められていますが、今や最終段階に取り掛かり、ポリオの撲滅は目前に迫っています。

ポリオ・プラス・プログラムは、現在RIとロータリー財団が一番熱心に取り組んでいるプログラムです。1995年規定審議会の決定に沿って、また2007年に再確認されたとおり、ロータリー財団管理委員会とRI理事会は、世界からポリオがなくなると証明される日がくるまで、「ポリオ撲滅が国際ロータリーとロータリー財団の第一目標」であります。

今回は、ロータリーのポリオ撲滅に対するここまでの活動の歴史を振り返ってみます。

#### 1. <3-Hプログラムの誕生>

RIはロータリー創立75周年を祝って、『3-Hプログラム』・・・詳しくは保健、飢餓追放および人間尊重補助金——Health, Hunger and Humanity Program・・・を 1978年5月東京国際大会で発表しました。

「3-Hプログラム」は1978～79年度にRIでスタートし、1982～83年度にロータリー財団に引き継がれています。

このプログラムの目的は、国際間の理解、親善及び平和を推進するための方法として、人々の健康状態を改善し、飢餓を救済し、人間的社会的向上発展を図ることにあります。

#### 2. <フィリピンで最初のポリオワクチン接種>

1984年フィリピンの保健統計によると、西太平洋地域所在の32か国のなかで、フィリピンはポリオの発生率の45%、同病気による死亡率の75%を占めていました。

当時、フィリピン保健省、WHO、ユニセフのいずれも他の伝染病撲滅との戦いに手いっぱい、ポリオ撲滅を実施するための予算がありませんでした。

そこで、1979年の初め、フィリピンのザビノ・サントスパストガバナー（1970～71年度）が、RIに「ポリオ免疫接種事業」についての支援要請をしたところ、3-Hプログラムによる最初の大規模免疫接種活動をするのに適切であることが認められました。

1979年9月フィリピンにおいて生後3か月から36カ月の子ども約600万人にたいして、

5年計画のポリオ免疫接種活動が始まりました。

### 3. <RIの本格的取り組みに先駆けた日本ロータリーの活動>

1981年 東京麹町RCの山田ツネさんは、「インドはしか免疫プロジェクト」を監督するためにボランティアとして参加。1982～83年度 東京麹町RC 創立15周年記念事業として、山田ツネさん、峯英二さんが中心になり、南インドにポリオワクチンを送り、子ども達をポリオから救う計画を立て、第258地区と第275地区の賛同を得て、二つの地区の世界社会奉仕（WCS）プロジェクトに発展しました。

この山田さん等のボランティアたちによる活動から、その経験を活かして、ロータリーはポリオ免疫プロジェクト——1982年のポリオ2005——→1985年のポリオ・プラス・プロジェクト——を発足させたのです。

1986年、1987年の国際協議会にグループリーダーとして参加した山田さんが自分の経験を生かしてポリオ免疫計画と具体的な募金方法を詳しく説明しました。（山田さんはインターナショナル・コーディネーター）

### 4. <ポリオ2005の誕生>

1982年2月RI理事会で「2005年にRIの100周年祭を迎えるまでに、全世界の児童をポリオから守る免疫接種を完了させることを目標とする」ことを決議しました。

1984～85年度のカルロス・カンセコRI 会長はこの目標達成の方法をはかる「ポリオ2005」委員会を任命。

1984年11月の理事会で同委員会からポリオ撲滅に関する報告を受理、全世界規模でのRIのポリオ撲滅活動が動き出しました。

### 5. <ポリオ・プラス・プログラム>

1985年2月ロータリー設立80周年に当たり、RIはポリオ・プラス・プログラムを発表。プラスとは、はしか、ジフテリア、破傷風、百日咳、結核の五つの病気を指し、ポリオだけでなく、これらの病気も含め予防接種を実施することになり、ポリオ撲滅活動からポリオ・プラス・プログラムと改称された。

1986年7月から委員会が立ち上がり、ポリオ・プラス・プログラムは二つの部門に分かれました。（免疫接種活動を担当する部門と、これに要するポリオ経口ワクチン調達資金を募集する部門）

1979年ロータリーがポリオ撲滅に乗り出してから、ロータリアンはお金を集めていただけでなく、多くのロータリアンが道路もないような僻地にまで分け入り、紛争地帯に赴き、実際にポリオワクチンを子供たちに届けて投与する活動もしてきましたし、紛争地帯では、双方の代表者を説得してポリオワクチン投与のために一時休戦にしたり、また宗教上の理由でワクチン投与を拒む人々を説得したりと様々な活動をしてきました。

### 6. <目標を上回る募金の達成>

RIは1986年7月から向こう5年間の継続事業として、1億2千万ドル（当時の日本円で200億円）の募金キャンペーンを実施し、日本では、募金総額40億円を最終目標として、1986年7月から日本ポリオ・プラス委員会により5年計画のポリオ・プラスの募金キャンペーンが始まり、1991年6月までに目標をはるかに超える2億1千7百万ドルを達成し、内日本は49億円の寄付を集めることが出来ました。

### 7. <ポリオの減少>

ロータリー財団では、WHOやUNICEFと綿密に連携し、集まった尊い資金をもとに、世界各地でポリオワクチンの投与を実施しています。しかしながら、ポリオワクチンの投与は、やさしいことではありません。宗教や紛争などの要因により、思うように事が運ばない場合も多く、ポリオワクチンを届けようとして、紛争に巻き込まれて亡くなった例もあります。

（ポリオ発症例の減少）

1981年 ポリオ症例 660,520症例

1985年 " 352,510症例

ポリオ・プラス・プログラム開始

1996年 " 41,110症例

1988年には毎日1,000人もの子供がポリオに感染していましたが、2011年の感染報告はわずか650件となりました。ポリオの発症率は99%減少し、感染国数も125か国からわずか4か国（アフガニスタン、イ

ンド、ナイジェリア、パキスタン) にまで減少しました。

インドの発症例についてはみると、2012年1月13日までの一年間ではポリオ無発症の状態を維持(2010年一年間で42件)しています。常在国リストからインドは外される可能性が高くなっています。

しかし残りの1%の地域は、他の地域と異なり、予防接種プログラムの障害となる問題点(具体的には劣悪な生活衛生環境、栄養状態によるワクチンの有効性の低下、過疎地へのアクセスの欠如、予防接種に対する理解の欠如、紛争地帯など)があり、ワクチン投与するのに困難な地域が多く、これ迄以上に多くの資金を必要としています。さらに、4か国からポリオが無くなった隣接国に再流入する可能性があります。

RIでは、2005年2月までにポリオ撲滅を実現しようとして、2002年に新たな「ポリオ撲滅キャンペーン」展開し、8千万米ドルの寄付目標を設定し、2003年6月までに1億1千万ドルを集めました。——常在国4か国までに圧縮しましたが、ポリオ撲滅は不可能でした。

(ポリオ撲滅宣言をした地域)

1994年 北・中・南米地域で最初のポリオ絶滅宣言  
2000年 WHOにより西大西洋地域に2番目のポリオ絶滅宣言——西太平洋地域ポリオ根絶。京都会議での「京都宣言」として発表されたので、日本のロータリアンの中には、ポリオは終わったとの誤解が生まれたようです。

2002年 ヨーロッパ地域でのポリオ撲滅宣言

(参考: 常在国での 2010 年発生はアフガニスタン 25 件、ナイジェリア 21 件、パキスタン 144 件、非常在国では 2010 年アンゴラ 33 件、コンゴ共和国 384 件、コンゴ民主共和国 100 件、タジキスタン 458 件、チャド 26 件、セネガル 18 件、ロシア 14 件他で、常在国からの感染か、撲滅した地域での再発の恐れがあると言われていています。中国で 2011 年に 10 年ぶりに少数ながらポリオの新たな感染者が確認されましたが、このウイルスはパキスタンからのものでした。)

8. <ポリオ・プラス・プログラムの目的に関する声明>

1990年6月ロータリー財団管理委員会はポリオ・プラス・プログラムの目的に関する声明を採択しました。To dream a new dream に始まるこの声明は、ポリオを単に制圧するのではなく、根絶するという新しい夢を持って引き続き援助を必要とする諸国にワクチ

ンを供給すると述べ、国際ロータリーは2005年には100周年記念とポリオのない世界、polio-free world という二重の喜びを味わうことになるとしていました。

(残念ながら未達成に終わり、今も撲滅運動は続いています)

9. <日本のロータリークラブの活動>

1994年、日本のロータリークラブは非ロータリー国である中国で、ポリオワクチン一斉投与を実施しました。

1995年、第2650地区(福井・滋賀・京都・奈良)はWCSの活動の一環としてカンボジアでワクチンの一斉投与を行いました。

同地区ではこの活動を皮切りに、幼児たちのためのワクチン投与を、1996年モンゴルで、1997年ネパールで、1998年ラオスで、1999年ベトナムで、2000年中国・ミャンマーで、2001年バヌアツで、2002年ミャンマーで、2003年カンボジアでと9年間にわたって活動を続けてきました。

その後、第2640地区、第2830地区(青森)など、日本の多くの地区やロータリアンがポリオワクチン投与のために多くの国々へ出かけていきました。

10. <1988年～2007年ポリオ撲滅への資金投入額>  
総額 41億米ドル 支援 拠出内訳 G8諸国 20億ドル (48%)

その他の国々 3億ドル (8%)

ロータリー 6.6億ドル (16%)

<参考>

1985年～2009年の公共部門の上位寄付者

アメリカ 14.5億ドル

イギリス 7.3億ドル

日本 3.3億ドル

ドイツ 2.2億ドル

カナダ、オランダ、ノルウェーとつづきます

(上記の資金投入総額と参考の金額は期間が異なっておりますので、数字は一致しません)



## ・次回のプログラム

10月12日(金)

「新入会員卓話」

会場 釧路東急イン

担当: 会報委員会

・点 鐘

森江会長

今週の会報担当: 佐野実会員